

<金標準先物、金利上昇で高値が抑えられるか・・・>



(出所：オアシス)

消費者物価指数（CPI）が事前予想を上回る0.9%となり、前年比では6.2%と31年ぶりの高い伸び率を見せるなど、インフレ高を意識した動きが強まっている。特に週末に発表されたミシガン大消費者信頼感指数では事前予想の72.5を大きく下回る66.8となるなど、インフレ高を意識した消費者マインドが低下している。

しかしインフレ指標に大きく反応する米国10年債金利は、CPIの発表で1.570%まで上昇したが10月のピーク時から比べると逆に0.1%近く低下するなど、市場の認識と違ってインフレ指標が高まる中で金利が低下する動きを見せている。

特に金利を生まないインフレヘッジの商品である金標準先物にとって好ましい環境下となり、CPIの発表を機に6591円から6826円まで短時間で235円の上昇を行なっている。

そのため今週は、15日に中国の鉱工業生産や小売売上高、16日には米国の小売売上高の発表、また米中首脳会談の開催やFOMCメンバーである4名の連銀総裁の講演もあり、インフレ高に対するタカ派的な発言が聞かれる様であれば、金利の上昇に伴い6850円を目の前にして高値追いが止まる可能性が高まると予想される。

<テクニカル>

金標準先物の日足をMACDとRCIで見ると、MACDで見るとMACDとシグナルが上昇を行っており、強気の域と思われる。ただヒストグラムが+20を上回るなど、行き過ぎた水準を示している。RCIでは短期が強気の継続を示す長期の維持を上回るなど強気で推移しているが、再度短期が長期を下回る確率が高いと思われ目先の調整安には注意したい。

2021年11月15日

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 347,500 円(2021年11月15日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 33,000 円(2021年11月15日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>